

## インフルエンザ流行レベルマップ

### 《コメント》

2011年第8週のインフルエンザの定点あたり報告数は15.75（患者報告数77,751）となり、第5週以降減少が続いているが、第7週から第8週にかけての減少は、それ以前の3週間と比較して小さな減少にとどまった。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約71万人（95%信頼区間：63万人～79万人）となり、年齢群別では5～9歳約23万人（32.4%）、10～14歳約13万人（18.3%）、0～4歳約10万人（14.1%）、30代約7万人（9.9%）、20代約5万人（7.0%）の順であった。5～9歳、10～14歳の年齢群では増加がみられた。

都道府県別では愛知県（36.19）、山口県（36.00）、大分県（30.91）、富山県（29.21）、三重県（27.68）、福岡県（26.37）、岐阜県（25.45）の順である。36都道府県では前週の報告数よりも減少がみられている一方で、大分県、山口県、岐阜県、三重県、愛知県では大きな増加がみられた。

警報レベルを超えている保健所地域は215箇所（40都道府県）、注意報レベルのみを超えている保健所地域は106箇所（33都道府県）と共に減少している。

2011年第4～8週の5週間のインフルエンザウイルス検出報告件数は、AH1pdmが最多であり、次いでAH3亜型（A香港型）、B型の順である。2010年第49週以降はAH1pdmの検出数の方が多い状態が続いているが、最近ではAH3亜型やB型の割合が増加しつつある。

○出典（国立感染症研究所感染症情報センター インフルエンザ流行レベルマップ）

